

令和4年度

# 教育事務に関する 点検及び評価報告書

《令和3年度事務事業分》



令和4年9月

七戸町教育委員会

## はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見等をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務  
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 目 次

I	点検・評価の概要	1
II	令和3年度七戸町教育施策の基本方針	5
III	令和3年度教育委員会の活動状況について	18
IV	令和3年度教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの意見	19
V	令和3年度施策別主要事業一覧	21
	各事業評価シート	22～89

# I 点検・評価の概要

## 1 点検・評価の対象

### (1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

### (2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

### (3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員3人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

## 2 点検・評価作業の経緯

令和4年	7月6日	第1回教育評価審議会
	7月20日	第2回教育評価審議会
	8月3日	第3回教育評価審議会
	〃	教育評価審議会が令和3年度教育委員会の事務事業に対する意見書を提出
	8月23日	文教厚生常任委員会において本報告書（案）説明
	8月25日	教育委員会定例会において本報告書（案）を承認
	9月6日	町議会定例会に本報告書を提出

## 3 評価報告書の公表

七戸町ホームページに掲載し公表する。

## 4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

七戸町教育評価審議会

委員 澤田 良子

委員 中村 美知代

委員 伊藤 清治

5 前年度（令和2年度事務事業分）の点検・評価における教育評価審議会委員からの意見に対する説明

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各事業の中止や規模を縮小して実施するなど各団体の活動が制約される中、開催時期等を見直すなど事業を進めていくための工夫も見受けられた。今後も、各団体の活動が継続していけるよう新しい考え方を取り入れながら進めていただきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス対策を十分に行いながら、各事業の目的やねらいを果たせるよう、また、各団体がこれまでと同等に活動の効果が得られるよう、感染予防対応と各種活動の両立を図ってまいります。</p>
<p>2 事務事業の見直しにあたって、新型コロナウイルス感染症により例年どおり事業を行うことができなかつたことをきっかけとして、事業を精査できる機会と捉え、スクラップアンドビルドを意識して取り組んでいただきたい。</p>	<p>事業の中止や開催時期の変更等を踏まえ、これまで取り組んできた事務事業の必要性、ニーズの把握や事業予算配分の見直し等を意識し、適正な事業精査に取り組み、事業を展開してまいります。</p>
<p>3 事業評価シートの作成について、各事業の取り組みに関して事業予算が伴わない場合であっても、関係機関との連携など事業を進めるうえで重要となる取り組みや留意すべき事項については、その内容が十分に評価できるよう事業評価シートに表記していただきたい。</p>	<p>事業評価シートにある事業概要の説明事項や今後の取り組み・課題の部分に、支援体制や情報連携体制など留意すべき事項などについて記述し、事務事業の取り組みが十分評価できるよう努めてまいります。</p>
<p>4 ICTについて ①GIGAスクール構想に基づき児童生徒一人ひとりにタブレット端末が整備される予定であることから、今後も継続して、ネットワーク環境の整備やプログラミング教育に関して教職員の支援体制の充実に努めていただきたい。</p>	<p>①児童生徒1人1台タブレット端末に加えて、指導者用パソコンや校内ネットワーク環境を整備し、タブレット端末を活用した授業の推進に努めます。 また、中部上北広域事業組合教育委員会と連携し、引き続き、管内の教職員の情報活用能力向上を目的とした研修を企画・実施するとともに、ICT支援員を配置してまいります。</p>

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>②タブレット端末の活用が進むことに伴って、情報セキュリティー対策と情報モラルの教育がこれまで以上に必要とされることから、児童生徒及び教職員等に対する情報倫理の形成に引き続き努めていただきたい。</p> <p>③児童生徒のICT環境が整備されてきているため、学校で取り組んでいることを保護者に理解していただきながら、今後、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため休校になった場合を想定した体制づくりについて、検討を進めていただきたい。</p>	<p>②児童生徒のタブレット端末利用による新たな問題が起きないように、引き続き、情報モラルに関する啓発資料の周知や関連動画等を活用し、児童生徒及び教職員の情報倫理の形成を図ってまいります。</p> <p>③家庭におけるネットワーク環境について個人差があることから、先進地の実施体制の調査や家庭での端末活用に関するルールを定め、試験運用を行い、緊急事態に対処できるよう取り組んでまいります。</p>
<p>5 特別支援教育に関する事業について、支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、その支援方法も多様化している。このため、支援員の増員だけでなく、定期的な異動及び知識や技術を身につける研修など、支援員の技量を確保しながら、より効果的・効率的な対応を行っていただきたい。</p>	<p>中部上北教育研修センターにおいて、支援員の知識や技術向上のための各種研修会を実施していますので、支援員へ積極的な参加を促します。</p> <p>また、支援員の人事異動については、各学校の状況を勘案し、教育現場において適切な支援に繋がるよう配置してまいります。</p>
<p>6 学校生活相談員配置事業について、タブレット端末が一人ひとりに整備される予定であることから、いじめ等を未然に防ぐため、いつでも相談できる体制はますます必要となってくる。今後も事業を継続し、より一層児童生徒がお互いに気持ちよく安心して学校生活できるよう支援の充実に取り組んでいただきたい。</p>	<p>タブレット端末の利用に起因するいじめ等懸念されるが、児童生徒の悩みに対応するため、校内での各種アンケート結果等について、教職員と行政が共有認識を図るとともに、引き続き学校生活相談員を配置し児童生徒支援体制の充実を図ってまいります。</p>
<p>7 ユニバーサルスポーツについて、ボッチャ競技など障がいがあっても老若男女すべての町民が楽しめるスポーツであることを、これまで以上に周知しながら普及活動に取り組んでいただきたい。</p>	<p>ボッチャとカローリングの用具を整備し、令和4年5月より七戸体育館を窓口に出発を開始するとともに、広報5月号にて周知を図っております。</p>

教育評価審議会委員からの意見	所管課回答
<p>8 ニツ森貝塚について、世界文化遺産登録に向けた環境整備や管理運営体制づくり等が着実に行われている。また、ボランティア団体との連携など、町民との協働による活動や広報活動の充実に取り組んでいただきたい。</p>	<p>ニツ森貝塚ボランティアガイドの会の支援及び貝塚館での体験活動の協働実施や、地元住民の協力を得ながらイベントの開催や広報活動に取り組んでまいります。</p>
<p>9 図書館事業について、施設整備に関する議論が進められていると思うが、地域の方々の意見を反映していくことや実際に使う人たちの意見を聞けるような場を設けながら、検討を重ねていただきたい。</p>	<p>図書館の施設整備について、利用者の意見や地域のニーズを踏まえ、図書館協議会等で検討を重ね、適切な施設整備に取り組んでまいります。</p>

## Ⅱ 令和3年度七戸町教育施策の基本方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、

- 1 「生きる力」を育むための、子どもたちの未来のための、学校教育
  - 2 学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上
  - 3 伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成
  - 4 生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供
- を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

# —「生きる力」を育むための、子供たちの未来のための、学校教育—

## 学校教育の方針と重点

### 1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

##### ア 教材研究の深化と魅力的な授業づくりの推進

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・ 言語活動の充実を図り、学習意欲を高めるために、解決する必要感のある「めあて」（学習課題）の設定と解決の「見通し」を持たせる場の工夫
- ・ 自己の考えを深める対話的な学びにするための適切な授業形態の工夫
- ・ 目指す資質・能力の明確化・児童生徒の習熟の程度の把握・教材研究の深化に基づく、「習得・活用・探究」の学習過程を大切にされた授業の実践

##### イ 指導と評価の一体化

- ・ 評価の観点に対応した指導と評価の一体化の充実
- ・ 必要に応じた補充的学習や発展的学習の導入
- ・ 学習内容の定着を図る「まとめ」の工夫と目的に応じた「振り返り」の視点の設定

##### ウ 学習環境づくりと学習習慣の確立

- ・ 学校間や家庭と連携した学び方や学習習慣の確立
- ・ 一人一人を生かすための学習環境の整備
- ・ 読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館の効果的な活用やタブレット端末等の積極的活用

#### (2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

##### ア 指導体制の整備・充実

- ・ 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心とした、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実と校内研修の実施
- ・ 各教科等体験活動などの指導の時期や内容を示した別葉の作成・見直し

#### イ 道徳性を養う指導の充実

- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫
- ・ 道徳の時間との関連性を明確にした体験活動の年間指導計画の作成・見直し
- ・ 児童生徒の発達の段階や特性等を考慮し、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の工夫

#### ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

- ・ 家庭や地域社会との連携、協力体制の整備・充実
- ・ 我が国や郷土の伝統・文化に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- ・ 郷土教材及びその素材の保存と共有、開発と活用

### (3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

#### ア 話し合い活動を生かした学級活動の実践と改善

- ・ 教科等と横断的な視点に立った年間指導計画の作成および見直し
- ・ 望ましい人間関係づくりや、生活をよりよくするための活動の工夫
- ・ 話し合って合意形成を図り、主体的に実践し、振り返る活動の充実

#### イ 主体的に活動する児童会活動・生徒会活動の工夫

- ・ 指導のねらいを明確にした活動内容の設定
- ・ 児童生徒の発想や計画を生かし、自治的・自発的な活動の指導・支援の工夫

#### ウ 児童の個性を図り、伸長と触れあいを深めるクラブ活動の工夫

- ・ 児童の自発的な発想を生かしたクラブ活動の工夫
- ・ クラブ活動の教育的意義について共通理解を図り、児童が必要に応じて話し合い活動をするなど、協力して運営できる指導の充実

#### エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

- ・ 教育活動全体を見通した調和のとれた学校行事の指導計画の作成
- ・ 行事のねらいや意義を理解させ、一人一人の児童生徒に具体的目標を持たせるための指導及び運営
- ・ 学校行事の評価の工夫

### (4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

#### ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

- ・ ICTや話し合い活動を取り入れ、自己の能力に適した課題を見つけることができる指導の工夫

- ・ 体力テストの分析から、個人・集団の課題の明確化と課題解決に向けた具体的取り組みの充実
- イ 保健教育の充実
  - ・ 児童生徒の心身の健康状態を把握し、個人や集団の課題を明確にした指導の充実
  - ・ 教科体育・学級活動等における保健学習及び保健指導等、教育活動全体を通じた体系的な保健教育の充実
- ウ 食に関する指導の充実
  - ・ 肥満傾向や過度の痩身、偏食、アレルギー等の個別指導が必要な子供への指導における担任、養護教諭と保護者との連携強化
  - ・ 児童生徒の食生活の実態を踏まえ、望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実
- エ 安全管理及び安全教育の充実
  - ・ 各学校の実情に応じた危機管理マニュアルの見直し及び危険を予測し、安全に行動できるようにするための発達段階に応じた指導の工夫
- オ 健康・安全のために、家庭や地域社会及び関係機関等との連携の推進

#### (5) 生徒指導の充実

一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

- ア 自己指導能力を育む協働的な指導体制の充実
  - ・ 全教職員の共通理解に基づいた実践項目の設定と校内研修等のさらなる充実
  - ・ 「校内いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応及び組織的な初期対応の充実
  - ・ 問題行動・不登校等への組織的な取り組みの充実及び取り組み状況を定期的に点検・改善する機会や場の設定
  - ・ 児童生徒の健全育成を図った学校間、家庭、地域社会及び関係機関等との連携
- イ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
  - ・ 児童生徒との信頼関係を基盤とし、生徒指導の機能を生かした授業や取り組みの充実
  - ・ 個に寄り添った教育相談体制及び組織的な初期対応の充実
- ウ 児童理解・生徒理解を深める教育相談の実施
  - ・ 児童生徒の内面理解に努める組織的な教育相談体制の充実
  - ・ 日常的な指導状況等についての教職員間及び保護者との確実な情報共有
- エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底
  - ・ いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりの実現にむけて、児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進
  - ・ 外部専門家を活用した児童生徒の些細な変化に関する情報の素早い共有、及びハートフルリーダーを中心とした組織的な対応

## (6) キャリア教育の充実

一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努める。

### ア 指導体制の整備・充実

- ・ 学級活動をキャリア教育の要として位置付けた全体計画及び年間指導計画の作成・見直し
- ・ キャリア教育で育む資質・能力や具体的な指導場面等について全教職員で共通理解を図る場の設定

### イ 現在及び将来の生き方を考え、行動し、活動の過程を記録する指導の充実

- ・ 学級活動の中で将来の夢や目標について考えさせたり、学ぶこと、働くこと、生きることの結び付きについて、身の周りにある課題を解決するために主体的意思決定に基づいて協働的に課題解決に取り組ませたりする指導の充実
- ・ 活動の過程を記録し蓄積する教材（キャリア・パスポート等）を活用した指導の充実
- ・ 幅広い啓発的体験活動の意図的・計画的実施、保護者への積極的な情報発信の推進
- ・ 児童生徒の個性や能力の把握、悩みを解消するための具体的指導やキャリアカウンセリングの充実
- ・ 進路に関する情報や資料を整備・蓄積し、効果的な活用

### ウ 啓発的体験学習の充実

- ・ 社会参画意識の醸成や働くことの意義を意識させる体験活動の充実（小学校）
- ・ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成を図る体験活動の充実（中学校）
- ・ 家庭や地域社会の協力を得た職場見学、職場体験等の更なる充実

## (7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

### ア 校内支援体制の整備・充実

- ・ 校内及び校種間における引き継ぎ体制の整備と組織的・継続的支援
- ・ 研修の充実による全教職員の専門性の向上

### イ 共生社会の形成に向けた、指導の充実

- ・ 個に応じた適切な教育課程の編成と指導と評価の充実
- ・ 共生社会の形成に向けた、ねらいや手立てを明確にした組織的・計画的な交流及び共同学習の実施
- ・ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

### ウ 家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携

- ・ 個々の障害の特性、将来の進路、指導方法に関する保護者との連携
- ・ 将来の自立や社会参加にむけて個別な支援計画の作成と家庭や地域社会及び関係機

## 関との緊密な連携

### (8) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

#### ア 教科等間の連携を踏まえた指導の工夫

- ・ 全教職員による教育環境の趣旨の共通理解と校内指導体制の整備
- ・ 環境教育との関連を位置づけた、各教科等の年間指導計画の作成および指導の工夫

#### イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫

- ・ 小学校と中学校の連携に配慮し、効果的で継続的な指導

#### ウ 環境にかかわる体験活動の推進

- ・ 環境保全に主体的に取り組む態度を身に着ける体験活動の充実
- ・ 学んだことを実生活に生かすための、積極的な情報発信及び家庭や地域社会、関係機関との連携の充実

### (9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

#### ア 我が国や郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

- ・ 郷土の自然・歴史・伝統・産物等に関する全教育活動を通じた計画的な指導の充実
- ・ 我が国と諸外国の文化等を相互理解するための指導の工夫
- ・ 異なった文化や習慣を持つ人々との交流の工夫

#### イ 外国語を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- ・ A L Tなどの効果的な活用及び各学年の領域に応じた言語活動の工夫・充実
- ・ 小・中学校間の連携と円滑な接続及び学びの連続性を意識した指導の工夫

#### ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

- ・ 異なった文化や習慣、言語の人々との交流などを通して、世界への関心を深め、広い視野で物事を考えられるような児童生徒の育成

### (10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

#### ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実

- ・ 組織的・計画的な情報教育の推進
- ・ 情報教育を推進するための校内研修等の計画・実施
- ・ 情報担当者を中心とした全体計画・年間指導計画の見直し、授業公開や各教科等の活用事例蓄積といった I C T活用面での運用、教育情報セキュリティーポリシーの見直し

#### イ 学習指導における I C Tや各種資料統計等の適切な活用の推進

- ・ 発達段階に応じた ICT の活用能力の育成
- ・ 各種統計資料等の適切な活用推進
- ウ 家庭や地域社会と連携しながら児童生徒の安全を守る「情報モラル教育」の推進
  - ・ インターネット上のトラブルから身を守るための知識や判断力を身につける活動の工夫
  - ・ 各教科等や生徒指導と関連させた指導及び家庭や地域社会、関係機関と連携した指導の充実

(11) 総合的な学習の時間の充実

自校で育てようとする資質や能力及び態度を明確にした総合的な学習の時間の充実に努める。

- ア 目標及びその趣旨の共通理解
  - ・ 各学校における教育目標を踏まえたうえでの目標や内容の設定
- イ 六つの要素（目標、内容、学習活動、指導方法、学習の評価、指導体制）を示した全体計画及び年間計画の改善
  - ・ 小学校と中学校の接続を意識した計画的な取り組みの推進
- ウ 学習活動の充実
  - ・ 探求課題の解決や、探求的な学習の課程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）における協働者による活動やまとめたり表現したりする活動の充実
  - ・ 社会体験、体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論等の学習活動の工夫
- エ 評価方法の工夫
  - ・ 自校の目標や内容に沿った評価の観点の設定と育てようとする資質や能力及び態度の育成を適切に評価するための評価基準の設定
  - ・ 学習の結果だけでなく、学習の過程の評価方法の工夫

(12) 研修の充実

教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。

- ア 組織的・計画的な研修の整備・充実
  - ・ 同僚性を発揮し、所属学年・専門教科の枠を超えて主体的・協働的に取り組む校内研修体制の整備・充実
  - ・ 校内外の研修から得た情報を共有する場の確保に努め、教育専門職として調和のとれた研修を推進
- イ 学校の教育課題解決のための実践的研究方法や評価方法等の明確化と検証の共有化
  - ・ 日常の授業実践に生かす、児童生徒の変容の評価・検証の工夫
- ウ 新学習指導要領に基づく実践的研究の充実
  - ・ 家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進
  - ・ 新学習指導要領の趣旨と内容の十分な理解に基づいた実践的研究の充実

# —学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

## 社会教育行政の方針と重点

### 1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会を形成することができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

##### ア 青少年の体験活動の充実

- ・ 身近な地域における体験活動での異年齢交流や世代間交流の促進
- ・ 関係団体との連携による、活動内容の充実

##### イ 地域が支えるキャリア教育の充実

- ・ 企業や関係機関・団体との連携による、キャリア形成のための学習機会の充実

##### ウ 地域全体で子どもを育む活動の充実

- ・ 学校支援ボランティア組織への支援
- ・ 学校・家庭・地域の協働による教育活動の充実

##### エ 家庭教育支援の充実

- ・ 学校及び関係機関との連携による、幼児期、学童期、思春期の子どもを持つ親に対する学習機会の充実
- ・ 子育てサークル等の家庭教育支援団体の育成と支援

#### (2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

##### ア 地域活動の実践者の育成

- ・ 家庭教育支援や各種ボランティア活動等についての、新たな実践者の育成
- ・ 地域課題に対応した学習機会の提供及び企画運営に参画できる体制づくり

##### イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

- ・ 各種ボランティア団体やサークルの地域活動の計画的支援並びに養成
- ・ 資質向上のための研修機会の提供

##### ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

- ・ 各地域の指導者及びコーディネーター相互の交流機会の提供
- ・ 関係機関・団体等と連携協力するためのネットワークづくりの推進

#### (3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

##### ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援

- ・ 多様な学習ニーズや地域課題をもとに、それらに応じた学習機会や学習の成

果を発表する場の充実

- ・ 関係機関との連携による学習内容の充実並びに主体的な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援
- ・ 各種発表会・イベント・地域行事への参加等、学習の成果を生かす機会や発表の場の充実
  - ・ 学習者・参加者が企画立案にかかわるための実施体制の改善及び社会参加活動への支援
- ウ 国際化へ対応できる人財の育成
- ・ 小中学生に加え幼児や大人を対象とした、ネイティブな英語に接する機会の提供

#### (4) 社会教育推進のための基盤整備

##### ア 社会教育推進体制の充実

- ・ 多様化する学習ニーズを反映させた社会教育計画の策定と、改善に役立つ事業評価の創意工夫
- ・ 関係機関・団体との連携協力体制の強化

##### イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

- ・ 地域の特色と、公民館、図書館等の社会教育施設の特性を生かした取り組みの推進と活用の促進
- ・ イベントや講座等の企画の充実と周知方法の工夫による、施設活用の促進

##### ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

- ・ 社会教育主事や図書館司書、学芸員等の有資格者の計画的な養成
- ・ 社会教育関係職員の研修機会の充実と資質の向上

##### エ 社会教育関係団体等の活動の支援

- ・ 社会教育関係団体指導者の各種研修への積極的な参加支援
- ・ 指導者養成研修の計画的な実施

#### ※「人財」とは

青森県では、「人は青森県にとっての「財（たから）」である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表しています。この七戸町教育施策の基本方針でも「人財」という言葉で統一しています。

# —学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

## 公民館の方針と重点

### 1 方針

公民館は、社会教育機関として町民の学習要求に応えるほか、地域社会の活性化を図るために、良好な人間関係を基盤とした住民相互の豊かな関係を醸成するなど、地域づくりの拠点となることから、多くの町民が公民館に関心を持ってもらうとともに、更なる公民館利用促進につながるよう努める。

### 2 重点

#### (1) 公民館等の充実及び活用の促進

- ア より多くの住民が利用しやすい公民館となるような環境整備
  - ・ 施設や備品の計画的な整備促進
  - ・ インターネットを活用した施設予約状況確認サービスの充実
- イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催
  - ・ 親子対象事業及び各世代対象事業の充実
  - ・ 地域活動に参加できるきっかけ（地域デビュー）の提供
- ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成
  - ・ 新たな自主グループの発足に向けての相談や支援の充実
  - ・ グループ活動に繋がる主催講座の実施

#### (2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

- ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋
  - ・ 町内の人財活用
  - ・ 利用者相互の交流の促進
- イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供
  - ・ 県及び上北教育事務所管内で開催されるイベント及び各種講座、学習会の周知
- ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供
  - ・ 活動成果の積極的な披露

# —学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

## 図書館の方針と重点

### 1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

### 2 重点

#### (1) 図書資料の整備充実と利用の促進

##### ア 図書館資料の充実

- ・ 蔵書のバランスを考慮し、かつ利用者ニーズに対応した一般書・児童書の収集整備
- ・ 地域資料の積極的な収集整備

##### イ 図書館サービスの充実

- ・ 予約・リクエスト・相互貸借サービスの利用による、利用者と本を結びつけるための迅速・適切な対応
- ・ レファレンスサービス（図書館資料を用いての調べもの案内）の強化

#### (2) 読書活動の推進

##### ア 子どもの読書活動の推進

- ・ 幼児・児童が本に親しむ環境の整備
- ・ 日頃読書習慣のない児童に向けた、本に触れる機会の提供
- ・ 「ブックスタート事業」の推進
- ※ 乳児が絵本をとおして家族との触れ合いの時間を持ち、さまざまな子育て支援につなげるきっかけづくりを行う。

##### イ 生涯学習の推進及び支援

- ・ 生涯学習のきっかけとなる、さまざまな文学作品に触れる機会の提供
- ・ 読書団体への資料提供等協力や催事への後援

##### ウ ボランティア活動の育成と支援

- ・ 図書ボランティアの円滑な活動のための各種研修会への派遣や活動機会の提供

# —伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成—

## 文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

### 1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りを持ち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、文化財保護の推進と芸術文化の振興に努める。

### 2 重点

#### (1) 文化財の保存・活用

有形・無形文化財及び史跡天然記念物並びに埋蔵文化財の保存・活用に努める。

ア 史跡二ツ森貝塚の世界文化遺産登録推進

イ 文化財の保存

・有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財等の保存

ウ 文化財の活用

・二ツ森貝塚館の運営管理

・文化交流センターの運営管理

#### (2) 伝統芸能の保存・継承

伝統芸能の保存・継承に努める。

ア 後継者育成や活動及び記録保存への支援

#### (3) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

ア 芸術文化に関する団体及びサークル等の育成

・自主的な活動についての町内外への情報の発信

・芸術文化団体及びサークル等の連携による発表会の機会の創設

イ 鷹山宇一記念美術館等との連携

・芸術文化団体及びサークル等への研修機会の提供

・子ども・青少年が芸術に直接触れることのできる機会の提供

# —生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供—

## 社会体育の方針と重点

### 1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

##### ア スポーツに親しむ環境づくり

- ・ スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供・充実
- ・ 健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

##### イ 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・ 町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・ 誰でもスポーツに親しめる総合型地域スポーツクラブ設立への取組

#### (2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

##### ア 競技力を高める環境づくり

- ・ 町体育協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・ スポーツ科学を活用した選手及び指導者の育成と研修機会の提供

##### イ 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・ 競技選手の強化支援体制の充実
- ・ 指導技術に長けた指導者の活用

#### (3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

##### ア 指導者の確保

- ・ 要請に応じて地域やスポーツ団体へ指導者を派遣できる体制整備・活用
- ・ スポーツ推進委員や体育協会会員の研修会・講習会等への派遣

##### イ スポーツ振興の充実

- ・ 体育協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取組
- ・ 各種団体からの指導者の相互派遣

##### ウ 社会体育施設等の有効活用・利用促進

- ・ スポーツ活動推進に関する情報の収集・発信
- ・ 利用者ニーズに即した施設改修・整備の促進

### Ⅲ 令和3年度教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）により、平成29年5月17日から教育長及び4人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等を管理、執行した。

#### 1 教育委員の構成

令和4年3月現在

役 職 名	氏 名	任 期
教 育 長	附 田 道 大	令和2年5月17日～令和5年5月16日
教育長職務代理人	山 田 典 郎	令和2年5月17日～令和6年5月16日
委 員	山 本 貴 子	平成30年5月17日～令和4年5月16日
委 員	附 田 由喜枝	令和3年5月17日～令和7年5月16日
委 員	菊 池 龍 達	令和元年5月17日～令和5年5月16日

#### 2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

##### (1) 教育委員会会議（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

開 催 回 数		付 議 案 件		
定 例 会	臨 時 会	報 告	議 案	協 議
12	2	38	37	3

#### 3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

##### (1) 主な活動

学校訪問（小学校3校、中学校2校）	上十三教育委員会連絡協議会研修会
小・中学校入学式・卒業式等の学校行事	成人式（当該年度及び前年度対象：2回）
教育奨励賞（受賞者選考及び授与）	教育福祉援助基金（奨学生選考及び授与）
奨学生選考委員会（奨学資金貸付事業）	新型コロナウイルス感染症対策本部会議

#### IV 令和3年度教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの 主な意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取り組みは、平成21年度に実施した平成20年度事務事業分から開始し、14回目の事業評価となるが、事業内容等の改善や教育の充実が図られるよう評価を行ってきた。

令和3年度事務事業について、同様に評価し審議した結果、以下のとおり、意見を述べる。

- 教育支援委員会の事業については、特別支援教育に対する保護者への不安や抵抗感を緩和し、充実した学校生活を送ることができるよう、早めの気づき・対応に努めていただきたい。健康福祉課との情報交換等は早い段階から情報共有するとともに、小・中学校との連携についても非常に重要であることから、十分配慮し積極的に取り組んでいただきたい。
- 公営塾運営事業については、新たに取り組んだ事業であり、当町には魅力的な高校があるということをこれまで以上に町内外に発信し、事業効果を最大限に活かすために積極的に取り組んでいただきたい。
- ICT支援員派遣事業については、教職員の資質向上や毎日の錯綜する業務の中で支えになっていることから、継続して取り組んでいただきたい。
- 新任教職員のふるさと研修事業については、当町は多くの文化財等を有しているもので、後世にしっかりと伝えていくことを念頭に置きながら、実施時期の調整を十分に行い、継続していただきたい。
- 国際交流事業については、新型コロナウイルス感染症対策により小規模であるが開催することができている。事業の目的達成のため継続して行くことが大事であると考えているので、子どもたちの参加意欲が高まるようなプログラムを企画するなど、事業の推進に取り組んでいただきたい。
- 青少年育成七戸町民会議については、あいさつ運動の実施効果が見られ、子どもたちがよく育っているように思われる。青少年健全育成者研修会については、町民意識の高揚を図る目的があることからオンライン開催にするなど工夫しながら進めていただきたい。
- 文化芸術鑑賞事業については、小さい頃から様々な文化芸術に触れることは、子どもの成長過程でとても重要なことであるため、教職員に視野を広げていただき、そのことで子どもたちの経験や視野が広がっていくよう取り組んでいただきたい。また、鷹山宇一記念美術館を活用することで、子どもの頃から美術館に親しみ、大人になってからも美術館に足を運ぶような循環を作り出せるよう取り組んでいただきたい。

- 公民館事業及び図書館事業については、七戸地区と天間林地区で各種事業を実施しているが、年間活動の一部を共同開催するなど実施方法を工夫し、これまで以上に情報共有しながら、事業効果や今後の取り組みなどについて長期的に統一していく方向性を見出していきたい。また、ボランティア活動の育成支援事業など両地区の活動が伝わるよう各種活動事業を整理し、事業評価シートの分類方法を検討していただきたい。さらには、事業を検討していく過程で新しい図書館の整備などについても議論していただきたい。
  
- 二ツ森貝塚館及び文化交流センターについては、旧校舎の利活用や施設の老朽化など維持管理に課題があることから、将来的に価値あるものを後世に伝えていくため、長期的な視点で事業の展開方法及び施設の整備などについて十分検討していただき、方向性を見出すよう取り組んでいただきたい。

令和4年8月3日

七戸町教育評価審議会

委員 澤田良子

委員 中村美知代

委員 伊藤清治

V 令和3年度施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	所管※	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し	その他		
1	学校教育の方針と重点	(1) 授業の充実	1 (1) ① 町費負担臨時教員配置事業	学務	●	●								
			② 少人数学級編制等研究事業	学務	●									
			③ 英語教育コーディネーター配置事業	学務	●	●								
		(2) 道徳教育と特別活動の充実	1 (2) ① 七戸町教育奨励賞	学務	●	●								
			② 教育福祉援助基金給付事業	学務	●									
			③ 奨学資金貸付事業	学務	●									
			④ 特色ある学校づくり推進事業	学務	●									
(3) 体育・健康教育の充実	1 (3) ① 学校検診事業	学務	●											
	② 七戸町学校保健会補助事業	学務	●											
	③ 七戸町児童生徒対外遠征費補助事業	学務	●											
	④ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	学務	●	●										
	⑤ 学校給食費給付金交付事業	学務	●	●										
(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	1 (4) ① 特別支援教育支援員配置事業	学務	●	●										
	② 学校生活相談員配置事業	学務	●	●										
	③ 教育支援委員会	学務	●	●										
	④ スクールソーシャルワーカー配置事業	学務	●	●										
(5) キャリア教育の充実	1 (5) ① 七戸町公営塾運営事業	学務	●											
(6) 国際化・情報化に対応する教育の推進	1 (6) ① 外国語指導助手(A L T)派遣事業	学務	●											
	② I C T 支援員派遣事業	学務	●											
(7) 研修の充実	1 (7) ① 七戸町教育振興会補助事業	学務	●											
② 教職員ふるさと研修事業	学務	●									●			
2	社会教育行政の方針と重点	(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人材の育成	2 (1) ① 家庭教育支援総合推進事業	生涯	●									
			② 放課後子ども教室推進事業	生涯	●	●								
			③ 国際交流推進事業	生涯	●	●								
(2) 次代を担う青少年の育成	2 (2) ① 成人式開催事業	中公	●											
(3) 社会教育推進のための基盤整備	2 (3) ① 七戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	生涯	●											
	② 青少年育成七戸町民会議	生涯	●											
	③ 七戸町民文化祭開催事業	生涯	●											
3	文化財保護と芸術文化の方針と重点	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1) ① 町立美術館の指定管理委託事業	生涯	●									
			② 文化芸術鑑賞事業	生涯	●									
			③ 七戸町民文化祭開催事業	生涯	●									
(2) 文化財の保護・活用の充実	3 (2) ① 世界文化遺産登録に向けた取り組み	世界								●				
	② 史跡ニツ森貝塚(史跡公園)の保護・活用	世界	●	●										
	③ 史跡七戸城跡の保護・活用	世界	●	●										
	④ 史跡土地買い上げ事業	世界	●											
	⑤ ニツ森貝塚館の運営	世界	●	●										
	⑥ 文化交流センターの管理	世界	●									●		
	⑦ 国指定有形民俗文化財の保管及び公開	生涯	●											
(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承	3 (3) ① 七戸町郷土芸能保存会支援事業	世界	●											
4	社会体育の方針と重点	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	4 (1) ① 七戸町ジュニアスキースクール	生涯	●									
			② 町民スポーツ交流会	生涯	●								●	
			③ スポーツ協会加盟団体によるスポーツ大会	生涯	●									
		(2) 競技者の育成を図る環境づくり	4 (2) ① 青森県民駅伝競走大会	生涯	●									
			② スポーツ協会補助事業	生涯	●									
			③ 七戸町スポーツ少年団活動費補助事業	生涯	●									
			④ スポーツ協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)	生涯	●									
			⑤ 七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)	生涯	●									●
			⑥ 健康増進生涯スポーツ普及事業	生涯	●									
(3) スポーツ振興の体制整備	4 (3) ① スポーツ推進委員研修	生涯	●											
② スポーツ顕賞表彰	生涯	●												
③ 各種大会開催や合宿等の誘致	生涯	●												
5	公民館の方針と重点	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	5 (1) ① 公民館運営審議員設置事業	中公	●									
			② 中央公民館(施設)事業	中公	●									
			③ 中央公民館分館事業	中公	●	●								
			④ 中央公民館講座開設事業	中公	●									
			⑤ 寿大学開設事業	中公	●	●								
			⑥ 柏葉大学開設事業	南公	●	●								
			⑦ 七戸南公民館講座開設事業	南公	●	●								
			⑧ 七戸南公民館分館事業	南公	●	●								
(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	5 (2) ① 文化協会の育成支援事業	中公	●											
② 七戸町連合婦人会育成事業	中公	●												
③ 中央公民館だより発行事業	中公	●									●			
6	図書館の方針と重点	(1) 図書資料の整備充実と利用の促進	6 (1) ① 中央公民館図書室事業	中公	●									
			② 図書館サービス事業	中図	●									
			③ 図書館協議会の運営	中図	●									
		(2) 読書活動の推進	6 (2) ① 子どもの読書活動推進事業(中央公民館)	中公	●									
② ボランティア活動の育成支援事業	中公	●												
③ 子どもの読書活動推進事業(中央図書館)	中図	●												
④ 生涯学習の推進・支援事業	中図	●												

※学務：学務課 生涯：生涯学習課 世界：世界遺産対策室 中公：中央公民館 南公：南公民館 中図：中央図書館

# 事業評価シート

事業細目番号	1(1)①	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	町費負担臨時教員配置事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	16,084	22,904	24,082	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		16,084	22,904	24,082	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	各校の教育課題を解決するため、町独自の教員(臨時講師)を採用し、教育環境の充実による「確かな学力の定着」・「生徒指導の充実」等を図る。	<p>1 七戸町教育委員会が求める人材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな教養、人間性、社会性を兼ね備えた教師</li> <li>・教育に対する情熱と教育者として強い使命感をもって取り組む教師</li> <li>・子ども理解に優れ、教育の専門家として知識・技能を備えた教師</li> </ul> <p>2 採用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報、町HP等で募集し、選考試験を実施。</li> </ul>

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	配置校・配置人数	七戸小学校 2名	七戸小学校 2名	七戸小学校 1名
		七戸中学校 1名	七戸中学校 1名	天間林小学校 1名
			天間林中学校 1名	七戸中学校 1名
			天間林中学校 1名	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)			
	A 町民ニーズは高い		B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)			
	A 町が行うべきである		B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			
A 成果は上がっている		B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)				
A 公平に配分されている		B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)				
A コスト削減の余地はない		B コスト削減の余地はある	A	
(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)				
A (75%)		B (50%)	C (25%)	A
優先性が高い			低い	
評価の説明	各校の教育課題を解決するため、平成26年度から実施している。配置校及び保護者からの需要と評価は高い。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	令和3年度は4名配置。(継続4名。七小1名、天小1名、七中1名、天中1名。) 県費負担教員に採用されるなど、欠員が生じた場合の人材確保が課題となっており、募集方法について検討が必要。
----------	---	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(1)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	少人数学級編制等研究事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	少人数学級編成を実現するため、県から希望する学校へ常勤講師を派遣して、児童生徒1人1人に対してきめ細かな学習指導や生活指導を行うことによって、学力の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	この事業は、青森県教育委員会の事業で、町の負担はない。授業の指導のみではなく、学級指導や給食指導も行う。本年度は、あおもりっ子育みプラン21により、七戸小学校に1名、天間林小学校に1名配置された。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)	七戸小1名	七戸小1名、天間林小1名	七戸小1名、天間林小1名
	配置校・人数			

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	本事業は、小中学校を対象とした青森県教育委員会の事業である。常勤講師を配置することによって、他の教員の負担が軽減され、児童生徒への指導が充実するなど教育環境全体の効果を上げている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	本事業は青森県教育委員会事業であり、町の財政的負担を伴わない事業であるため、費用対効果が大きい。教職員の事務量が増大してきている中で、児童へのきめ細かな学習指導や生活指導に効果が大きいと、継続して県に対して要望・申請する。
----------	--	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(1)③	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	英語教育コーディネーター配置事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	1,411	241	230	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		1,411	241	230	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小学校新学習指導要領(平成29年文部科学省告示第63号)により、2020年度から小学校において英語が教科となったため、英語指導の専門性を有する者を設置し、小学校教員の指導力を養成するとともに、児童の学習援助及び学校の教育力を向上させるため。	学校長の指揮のもと、次の業務を行う。 1. チーム・ティーチングによる授業支援及び学習指導に関わる教員の指導。 2. 学年の年間指導計画、学習到達目標の整備に関わる指導。 3. 教員の英語力向上を図るための校内研修の計画・実施に関わる指導。 4. 学習到達評価の枠組み及び評価実施方法の設定に関わる指導。

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	配置校・配置人数	天間林小学校 1名	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)			
	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)			
	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)		A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			
A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)				
A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)				
A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある		A	
(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)				
A (75%)	B (50%)	C (25%)	B	
優先性が高い			低い	
評価の説明	小学校教員の英語指導力の養成と児童の学習援助等を目的として平成30年度から実施。令和3年度は七戸小学校を拠点校に1名配置し、町内全小学校(3校)で活動した。チームティーチング(TT)による指導や指導計画立案の援助などを行い、英語指導の充実が図られた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	七戸小学校を拠点校として町内全小学校(3校)で活動した。次年度以降も継続していく。
----------	---	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町教育奨励賞				

事業費	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決 算 額(千円)	97	78	129	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	97	78	129	

事業概要	□ 目的	児童生徒が教育文化活動・スポーツ活動において優秀な成績を収めた団体及び個人を表彰することにより、能力開発や健全育成を図ることを目的とする。
	□ 内容	表彰基準に該当する者で学校長及び各種スポーツ少年団本部長から推薦があった者の中から教育委員会が審査し、各賞を決定する。 表彰式は年1回実施。

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	特別優秀賞	該当なし	該当者なし	該当者なし
	最優秀賞	個人の部4名	個人の部11名	個人の部16名
	優秀賞	団体の部2団体、個人の部25名	個人の部6名	団体の部1団体、個人の部6名
	優良賞	団体の部2団体、個人の部18名	団体の部1団体、個人の部21名	団体の部2団体、個人の部21名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)、(エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			B
評価の説明	七戸町教育奨励賞表彰要綱の表彰基準を満たし、各学校長並びにスポーツ少年団から推薦された児童生徒について公平に審査を行った。教育文化及びスポーツ活動において、児童生徒の能力開発、健全育成の充実に繋がっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	教育文化活動関係の表彰基準の該当が高くなっている。また、スポーツ活動では、少子化による出場人数の減少により、上位大会の出場権が得られやすくなっているため、表彰基準を検討し、教育文化及びスポーツ活動の能力開発及び健全育成を図っていく。
----------	---	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	教育福祉援助基金給付事業				

事業費	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決 算 額(千円)	1,500	1,000	950	
	財 源 内 訳	国・県支出金			
		そ の 他	1,500	1,000	950
		町 債			
一 般 財 源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	高等学校・高等専門学校へ進学し、勉学に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒に対し、七戸町民として自覚と誇りを持ち学業に励んでもらうために、入学祝金として奨学金を授与する。	出願資格は、七戸町民で、七戸町内の中学校3学年に在学し、翌年度に高等学校・高等専門学校へ進学する者で、学業優秀な者(成績評定が3.5以上)であること。

事業効果	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	給付金額(円)	1,500,000	1,000,000	950,000
	給付者数	30人	20人	19人
	給付金額(1人当たり)	50,000	50,000	50,000

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	中学校生徒に奨学金を直接交付することにより、町として期待の意を伝えることができ、修学の意義について考えてもらう良い機会となっている。そのことが修学意欲の向上に繋がり、その後の郷土愛の発揚にも寄与している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	事業の趣旨に即した成果を得られている。生徒数も減少しているため、令和2年度から町内中学校全卒業予定者数の20%以内を対象人数とし、本事業を可能な限り継続していく。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(2)③	担当課	学務課	担当者	中村 彰悟
事業名	奨学資金貸付事業				

事業費	年度			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
決算額(千円)	19,140	18,080	23,880	
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	19,140	18,080	23,880

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町に住所を有する者の子弟で、学業の優れた学生及び生徒であって経済的理由により就学が困難なものに対して資金を貸し付け、人材育成を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	貸付を受けることができる者は、学校教育法第53条に規定する学部、学科及び課程に在学する者、又は法第82条の3に規定する専修学校の専門課程に在学し、父母又は後見人等が七戸町に1年以上住所を有する者、外国の大学に在学する者。 貸付額は、大学に在学する者は4万円以内、外国の大学に在学する者は5万円以内、大学又は専門学校に進学する者は入学一時金として50万円を限度に貸し付けする。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
項目(単位)				
貸付額(円)	19,140,000	18,080,000	23,880,000	
貸付者(新規・継続)人数	33	32	41	
新規採用者(再掲)	11	9	16	
滞納総額(円)年度末現在	16,197,500	15,439,600	14,547,400	

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	町民ニーズは高く、保護者の経済的支援をしている。大学等進学率など教育を受ける機会の増加に効果を上げており、成果が上がっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	貸し付け申請や償還の事務処理を効率よく、かつ厳正に行うことにより、より安定的な運営を行うことができ、長期にわたる運営を可能にできるよう努める。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(2)④	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	特色ある学校づくり推進事業				

事業費	年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		決算額(千円)					
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源		1,244		1,227		1,213

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	児童生徒の「生きる力」をはぐくむため、教育活動・学校行事(文化芸術事業・体育事業等)などの学校教育課程に位置づけられる教育活動を推進することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各小中学校が、通常の授業では得ることのできない教育活動を企画し、予算の範囲内において、学力向上を掲げる教科の教材費や専門的な知識・技術を有する外部講師に対する謝礼金等各学校において柔軟な事業を実施した。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	項目(単位)	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	対象小学校件数		3校		3校		3校
	小学校補助金額		770,000円		747,000円		731,000円
	対象中学校件数		2校		2校		2校
	中学校補助金額		474,000円		480,000円		482,000円

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	B
優先性が高い			低い
評価の説明	各小中学校の特色を生かした行事等を自由に計画できることから、各校からのニーズは高い。学校の規模(学級数・児童生徒数)により補助金額を決定・交付し、各校において教育目標を達成するために独自の・柔軟的に事業を実施している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	生きる力を育むための事業であり、各校独自の事業を実施。通常の授業では得ることのできない知識や教養を身につけることのできる事業であり継続の要望は大きい。
----------	--	---



# 事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)			170	100
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			170	100

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町内のこども園・保育園・小中学校及び七戸高校・七戸養護学校の児童・生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	①学校保健衛生の施策に対する協力 ②保健衛生思想の普及啓発 ③学校保健に関する調査研究・事業計画および実践 ④学校関係者の指導および研修 ⑤学校保健施設の助成 ⑥学校保健資材の斡旋 ⑦家庭における保健思想の啓発 ⑧学校給食の実施・促進及び管理指導
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全国学校保健主事・学校保健研究大会研	参加なし	中止	中止	
七戸町学校保健研究大会	七戸中「生徒会保健委員会活動を通じたけが予防と運動習慣形成をめざして」	中止	中止	
保健主事研修会	8月 夏季合同研修会	中止	中止	
//	1月 冬季合同研修会(普通救命講習)	中止	中止	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
評価の説明	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、多数の研修が中止となった。WEB開催の研修に参加するなど、可能な活動を実施した。学校での健康指導に加え、研修等を通じ、家庭での健康への意識啓発につなげられるよう取り組む必要がある。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	健康教育については横断的に取り組む必要があることから、保護者への情報提供の場としても、今後も継続していく必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じることにより研修など実施できるよう努めていく。
----------	--	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(3)③	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	七戸町児童生徒対外遠征費補助事業				

事業費	年 度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	財源内訳	決 算 額(千円)		2,152	332
	国・県支出金				
	そ の 他				
	町 債				
	一 般 財 源		2,152	332	1,626

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	<p>小・中学校における部活動において、遠征費の一部を補助することで部活動の推進及び競技力の向上並びに児童生徒の安全確保を図るとともに、保護者等の経済的負担を軽減する。</p> <p>県大会以上の大会へ参加した、七戸中学校、天間林中学校が、延べ14大会に出場し、参加料、プログラム代、食糧費、交通費、宿泊費等を補助した。</p>	

事業効果	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
小学校対象件数		2件	0件	0件
小学校補助金額		53,518円	0円	0円
中学校対象件数		21件	12件	14件
中学校補助金額		2,097,821円	331,585円	1,625,585円

事業評価	評 価 項 目		評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	<p>本事業は、県大会以上の遠征費の一部を補助することで、児童生徒の体育活動及び文化活動の活性化を担っている。特に東北大会、全国大会など県外遠征は、交通費及び宿泊費等の保護者並びに指導者負担が大きくなることから、上位大会出場に対する経済的負担を軽減することで、児童生徒の積極的な教育活動に有効性が認められる。</p>		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	<p>本事業は、保護者及び学校側から要請される事業であるが、基準に基づき、公正かつ公平性を保持した運用を行い、事業を継続する。</p>
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		5,023	4,027
財源内訳	国・県支出金	64	0	0
	その他			
	町債			
	一般財源	4,959	4,027	4,083

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町就学援助費支給要綱に基づき、経済的に困窮し、就学困難な児童生徒の保護者から就学援助申請があった場合は、世帯の経済状況を審査し認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費等。なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
援助費支給額実績(円)		5,022,818	4,026,615	4,082,448
準要保護支給対象者		116	101	105
要保護支給対象者		2	0	0

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高く、児童生徒の就学支援の効果は高い。給食援助費については、町単独の学校給食費補助金から支給となることにより、区域外就学児童生徒の保護者(町立小中学校に就学する児童生徒の保護者で町外に住所を有する者)のみに支給されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	経済的困窮世帯にとって当該事業の必要性は高く、児童生徒の教育に支障をきたすことの無いよう今後も事業を継続していく。また、手続き効率化の検討も続け、適正な運営を行っていく。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(3)⑤	担当課	学務課	担当者	佐藤 亨哉
事業名	学校給食費給付金交付事業				

事業費	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決 算 額(千円)	43,372	42,436	48,487	
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	43,372	42,436	48,487	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小・中学校の学校給食費用を保護者に支給し、経済的負担を軽減し、少子化対策及び子育て支援の充実を図る。
	<input type="checkbox"/> 内容	町内外の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者で、町内に住所を有する者を対象とし、学校給食費に相当する額を給付。国又は地方公共団体の負担において給食費の全部又は一部について給付等を受けた場合は、当該給付金の額から当該給付額に相当する額を控除した額とする。生活保護受給者、町外に住所のある区域外就学者の保護者は対象外。

事業効果	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	小学校	654人(町内3校、町外2校)	615人(町内3校、町外1校)	575人(町内3校、町外2校)
	中学校	322人(町内2校、町外7校)	334人(町内2校、町外6校)	334人(町内2校、町外5校)
	特別支援学校・学級	1人(町内1校、町外0校)	1人(町内1校、町外0校)	0人(町内0校、町外0校)

事業評価	評 価 項 目	評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	保護者の経済的負担が軽減されるため、事業の必要性は高い。町外学校在籍且つ他の援助制度を利用する者には、支給額を調整し公平に支援を行っている。少子化対策としての有効性は判断しがたいが、経済的負担に対する有効性は認められ、子育て支援に繋がっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	子育て支援に繋がるため継続して取り組む必要がある。対象者の状況によって、他課や他市町村からの情報提供が必要なため、手続きの効率化や公平性について検討していく。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)①	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	特別支援教育支援員配置事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	20,131	22,483	24,791	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		20,131	22,483	24,791	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	小・中学校の通常学級及び特別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導の補助、生活指導の補助及び介助等を行うことを目的に、各小・中学校に特別支援教育支援員を配置する。	学校長の指揮監督のもと、学級担任と連携し、次の支援を行う。 ① 基本的な生活習慣確立のための学校生活上の介助 ② 学習補助 ③ 学習活動、教室間移動等における介助 ④ 校外行事や運動会等、各行事における介助

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	配置校・支援員数	小学校 3校 ・ 11名	小学校 3校 ・ 11名	小学校 3校 ・ 11名
		中学校 2校 ・ 4名	中学校 2校 ・ 4名	中学校 2校 ・ 4名

事業評価	評価項目	評価
	① 必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	② 妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③ 有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている      B 効果は上がっていない	A
	④ 公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤ 効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
⑥ 優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、個々の特性に応じた適切な教育を行う上で、特別支援教育支援員を配置することは、必要性、有効性ともに高く、重要な事業となっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後さらに必要性が増していくと考えられる。適切な支援をしていくためには、専門的な知識を身に付け、具体的な支援技術を習得していく必要があり、各種研修会を利用して、支援員の資質向上に努めていかなければならない。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)②	担当課	学務課	担当者	十枝内 知子
事業名	学校生活相談員配置事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	4,219	4,204	4,493	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		4,219	4,204	4,493	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	児童生徒の悩みや不安などを解消し、安心で充実した学校生活が送られる環境づくりを進める。また、教職員と連携し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、・早期対応を行うことを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	学校長の指揮監督のもと、児童生徒の悩みや不安解消のため個別にカウンセリングを実施したり、いじめや不登校児童生徒の指導を行うため、次の支援を行う。 ①児童生徒や保護者の悩みに対する相談対応 ②児童生徒の学校生活の適応援助 ③地域と学校の連携支援 ④その他学校における教育相談活動の支援
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	配置校・相談員数	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名
		天間西小学校 1名	天間西小学校 1名	天間林小学校 1名
		七戸中学校 1名	七戸中学校 1名	七戸中学校 1名
	天間林中学校 1名	天間林中学校 1名	天間林中学校 1名	

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	児童生徒の不登校やいじめなどの問題行動が多様化し、学校や保護者だけでは、解消することが困難となっている現状にある。このことから、児童生徒の学校生活を安定させるために、気軽に、そして素直に話すことができる第三者として学校生活相談員は、重要な役割を担っている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	児童生徒が気軽に相談できることがストレスの軽減につながり、また、児童生徒の小さな変化にも気づくことができるメリットがある。 今後も継続していくことが必要であり、各学校の状況に応じて配置をしていかなければならない。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)③	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	教育支援委員会				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	保護者の希望により障がいのある、又は、発達や行動の気になる児童生徒にとって、適切な教育の場を決定できるよう、専門知識のある者によって構成された教育支援委員会において一定の判定をする。	七戸町と東北町とで共同設置の中部上北教育支援委員会 (1)障がいのある、又は、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒の適切な教育措置に係る総合判定 (2)就学に係る教育相談 (3)その他、中部上北広域事業組合教育委員会教育長が必要と認めた者

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	対象児童生徒数	33	21	39
	入級・入校判定者数	29	14	32
	実入級・入校者数	27	12	31

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	関係各機関と随時情報交換を行うことで、学校生活に関して困り感を抱えている児童生徒への適切な支援対策を検討することができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	特別支援教育に対する保護者への不安や抵抗感を緩和するために、年長児に限らず、早期から情報提供をしていく。関係機関との情報交換を積極的に行い、保護者への適切な情報提供と対応を行っていく必要がある。
----------	---	---



# 事業評価シート

事業細目番号	1(5)①	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	七戸町公営塾運営事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		0	0
財源内訳	国・県支出金			14,913
	その他			5,000
	町債			8,400
	一般財源			2,065

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町の活性化や人口減少・少子化対策として、持続可能な地域づくりを担う人材育成を推進するため、七戸高校生徒を対象とした公設民営塾を開校し、基礎的な学力向上を図りながら、キャリア教育など多様な学びの場を創出する。また、それらの取り組みにより七戸高校の魅力化を図り、高校入学者を増やし、現在の学校規模の維持・存続を目指していく。
	<input type="checkbox"/> 内容	地方創生推進交付金を活用し、令和3年度から令和7年度までの5年間に事業期間として、七戸高校の敷地内にある生徒会館2階に、公設民営塾【七戸公営柏葉塾】を開校。事業運営は民間業者へ委託し、講師の派遣や自学自習の指導、施設管理等を行う。また、令和3年度は生徒会館改修工事を行い、利用環境の整備を行った。年間活動として、講師3名が常駐し、希望する進路に合わせた学習指導やカリキュラム作成支援のための学習活動、また、キャリア教育など多様な学びを通じて人材育成を行う地域活動を実施している。

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
塾利用生徒数		0	0	59人
(地元中学生数)				(15人)
入学者数		98人	107人	103人
※事業効果はR4年度から				

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%)	A
評価の説明	塾の利用生徒数をR3年度80名、R4年度100名、R5年度110名、R6年度115名、R7年度120名と計画し、R3年度は10月1日開校のため3年生の利用が少なかった。七戸高校教職員と塾講師との連携が充実しており、塾希望者は増加傾向にある。R4年3月に実施した満足度アンケート調査結果において、回答した44世帯のうち、33世帯(75%)から通塾させてよかったと評価をいただいている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	青森県内で初の公設民営塾であり、新たな事業として町内外の中学生への広報活動に重点をおき、七戸高校入学者数及び塾利用者数の増加につながるよう取り組んでいく。七戸公営柏葉塾においては、生徒の学力向上にむけた学習活動や人材育成のための地域活動に継続して取り組む。
----------	--	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)①	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	7,649	6,444	6,794	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		7,649	6,444	6,794	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	外国語教育の充実を図るとともに国際交流の推進を図り、国際理解教育の推進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致事業)を活用し、2人のALTを町内の小・中学校に派遣し、外国語教育の充実を図っている。 ①学校における外国語授業の補助 ②学校における外国語活動の補助 ③特別活動及び課外活動への協力 ④外国語担当教員の研修補助 ⑤外国語教材の作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力 ⑥地域における国際交流活動への協力
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	ALT派遣校等	小学校 3 中学校 2	小学校 3 中学校 2	小学校 3 中学校 2

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	教育委員会に所属するALT2名を七戸町内小・中学校に派遣し、各校の教員と連携して、生きた英語に触れる機会を増やした。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	継続4年目となるALT1名が令和4年7月で帰国となる。新ALTが夏季来日予定となっているため、引き続き2名体制で町内各小中学校へ派遣し、外国語教育の充実を図っていく。
----------	--	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)②	担当課	学務課	担当者	濱村 壮琉
事業名	ICT支援員派遣事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	0	0	6,314	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源				6,314	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小・中学校に整備された通信ネットワーク及び児童生徒1人1台タブレット端末を効率的に活用した授業の推進を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	小・中学校5校に週1回支援員を派遣し、端末の準備や操作補助等の授業支援や教職員に対する業務支援、また学校行事でのICT機器の使用補助など、ICT業務全般について支援を行っている。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	ICT支援員派遣校	0	0	小学校 3校 中学校 2校

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	児童生徒1人1台タブレット端末を活用した授業等の実施にあたって、端末操作や環境設定など多くの課題の解消に効果を発揮している。児童生徒だけでなく、教職員に対する支援など、学校全体としてもICT関連業務がスムーズに進めることができ、支援員の派遣は重要な役割を担っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	令和3年度からの事業であり、ICT関連業務の支援は今後も必要性が高いと思われる。各学校からの要望も強いことから、引き続き支援員を派遣し、タブレット端末を活用した授業の充実を図っていく。
----------	--	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(7)①	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	1,444	595	605	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源		1,444	595	605	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	幼児・児童・生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	○幼児・児童・生徒の教育、文化及び体育の振興事業 スポーツ交流会、小・幼・保育園交流会等 ○教職員の資質向上事業 ふるさと研修、研究活動等

事業効果	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
	職員研修	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等
	先進校等研修(幼・保育園)実施	5校(6園)	5校(6園)	5校(6園)

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	七戸町の教育環境充実のため、教職員の資質向上や、こども園・保育園・学校間交流を行うことにより、進学のスムーズな移行に貢献している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教職員向けの研修を実施することができなかった。また、学校とこども園・保育園との交流活動を実施できない学校もあった。感染症対策を講じて実施方法などを改めて検討する。
----------	--	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(7)②	担当課	学務課	担当者	古屋敷 博
事業名	教職員ふるさと研修事業				

事業費	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決 算 額(千円)	10	10	15	
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	10	10	15	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	市町村教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等についての研修を行い、理解を深める。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町文化ガイドの会及び二ツ森貝塚ボランティアガイドの会を講師に迎え、町内の歴史的な遺産及び史跡など歴史、文化について研修した。 今年度は、史跡二ツ森貝塚、史跡七戸城跡、ひげ塚公園、見町観音堂、銀南木、二ツ森貝塚館を見学し、説明を受けた。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	参加者: 教職員	10人	8人	12人
	教育委員会	1人	1人	1人
	合計	11人	9人	13人

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	初任者及び赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を実際に見学し、教育課題の研究や学習指導に役立てることに成果を上げた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	教材となる文化財等が多数存在するため、活用し、研修効果を高めるよう計画していく。 学校の夏休み期間に計画するが、他機関の研修等と重なるため、日程調整及び開催方法について検討する必要がある。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	2(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	家庭教育支援総合推進事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		467	333
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	467	333	293

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	家庭における子育てやしつけなどを見つめ直すきっかけを作るため、町内のこども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校において親などが参加する様々な機会を活用して、家庭教育に関する学習機会の提供を行う。	町内のこども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校での子育て講座、家庭教育講座の実施。 思春期講座6回、虫歯予防講座1回、体操教室3回、工作等教室12回・・・計22回

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
実施講座数		27	23	22
参加者数		1,154	652	526

事業評価	評価項目		
		①必要性(町民が必要としていますか)	
	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
	②妥当性(町が行うべきですか)	A	
	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A	
	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A	
	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A	
	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A	
	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		
評価の説明	家庭教育力の低下が指摘されている中、保護者が多数集まる参観日などの機会を利用し実施する子育て講座・家庭教育講座・思春期講座などの実施は非常に重要である。 また、対象の全施設で実施しており、講師も町内在住の指導者を活用するなど、学校・家庭・地域の連携が図られてきている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	対象の施設において親子で家庭教育講座などに参加する機会は重要であり、それぞれの施設で保護者のニーズにできるだけ応じた講座を実施しており、今後も事業継続要望があるため予算の確保に努める。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	2(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	放課後子ども教室推進事業				

事業費	財源内訳	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		決算額(千円)		1,307	894
	国・県支出金		730		
	その他				
	町債				
	一般財源		577	894	508

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域の人材を活用した学習・スポーツ・文化活動等を実施し、放課後に子どもたちが安心して活動できる場の確保を図るとともに子どもたちの健全な育成を目指す。	<input type="checkbox"/> 内容	・放課後対策事業の総合的な調整役を担う地域コーディネーターを配置。 ・活動の補助を担う教育活動サポーターを配置。 ・放課後子ども総合プラン指導員等研修会に参加。 ・軽スポーツ、習字教室、各種体験活動を実施した。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	のべ開催日数	63	47	26
	のべ児童参加者数	1,392	892	490
	地域コーディネーターの配置者数	1	1	1
	教育活動サポーターの配置者数	3	4	4

事業評価	評価項目			
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%)	C (25%) 低い	A

評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からプログラムの開始を遅らせたため、開催日数や参加者数は前年度より減少しているが、その後の開催日数・参加人数を見ると町民ニーズは高い。各種体験活動により、放課後の活動の充実につながっている。 コストについては、体験活動の種類を増やしてほしいという児童・保護者からの要望を実現させるとすると削減は難しい。
-------	---

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	現在行っている体験活動をより充実させることや、新たなプログラムを導入することなどで、児童・保護者のニーズを維持できるかどうか事業継続のポイントになる。 本事業は地域コーディネーター・教育活動サポーターの担う役割が大きいいため、引き続き人材の発掘及び、各種研修の充実に努める。
----------	---	--

# 事業評価シート

事業細目番号	2(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 敦
事業名	国際交流推進事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	4,634	59	319	
	財源内訳	国・県支出金	1,850		
		その他	1,300		
		町債			
一般財源		1,484	59	319	

事業概要	□ 目的	外国人と交流し、異文化に触れる機会を提供することにより、異文化への関心や理解を高め、外国人とのコミュニケーション能力を養い、国際社会に対応できる人材の育成を図る。	□ 内容	1 イングリッシュデイ 7月25日(日)、小学生(3~6年)を対象に農作物の収穫作業を通じた英語学習を実施した。 参加者は、外国人講師から野菜の色、形、大きさ、数のほか、自己紹介や日常会話における英語を学習した。 2 イングリッシュキャンプ 8月8日(日)・9日(月)の2日間、中学生を対象に東八甲田家族旅行村でのレクリエーションを通じた英語学習を実施した。 参加者は、普段の生活により近い形で英語に親しみ、学習することができた。
------	------	---	------	--

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	イングリッシュデイ参加者数	29	14	16
	イングリッシュキャンプ参加者数	8	0	4
	参加者数(台湾派遣)	10	0	0

事業評価	評価項目			
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
		(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	B
評価	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
		(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
評価	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
		優先性が高い	低い	
評価	評価の説明	参加者のアンケートの結果から、収穫体験やキャンプの内容が楽しかったという感想が目立ち、英語学習については意図する成果があまり得られていないことが伺えた。 また、イングリッシュキャンプの参加者が4名であったことなどを考慮し、以上のように評価した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、県外移動が困難となり、例年実施している事業の縮小が避けられない状況下において、事業を実施できたことは、高く評価できる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	外国人とのコミュニケーションには、世界共通語とされる英語の学習は必須であるが、事業内容が英語学習にのみ着目し、異文化へ触れるまでに至っていないため、異文化への関心及び理解の向上も踏まえ、効果的に事業を企画し、展開する必要がある。 ※異文化交流事業及び国際交流推進事業を統合
----------	--	---











## 事業評価シート

事業細目番号	3(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 敦	
事業名	七戸町民文化祭開催事業					
事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	決算額(千円)	966	0	0		
	財源内訳	国・県支出金				
		その他				
		町債				
一般財源		966	0	0		
事業概要	□ 目的	町民の自主的な文化・芸術活動を披露し、又は発表する機会を提供し、芸術文化に親しむ環境づくりを推進することにより、地域文化の振興を図ることを目的とする。				
	□ 内容	1 舞台発表(町内文化団体、こども園等) 2 作品展示(町内文化団体、公民館講座、小中学校、こども園等) 3 地域活動展示コーナー(シルバー人材センター、日赤奉仕団等) 4 軽スポーツ体験コーナー				
事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	項目(単位)					
	参加団体数	文化部門76	中止	中止		
	入場者数	1,395				
事業評価	評価項目					
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A	
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)      (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他			A	
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A	
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A	
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合)      (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他			B (イ)	
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A	
評価の説明	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 町民文化祭は、日頃の文化・芸術活動の成果を発表する貴重な機会であるため、開催可能になった場合に備えて、準備していきたい。					
今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )					
	出展・出演団体からのニーズは高いため、団体の協力を得ながら魅力あるイベントづくりをしていく必要がある。					

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(2)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見真樹
事業名	世界文化遺産登録に向けた取り組み				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		68,380	65,897
財源内訳	国・県支出金	14,366	15,290	
	その他			
	町債	46,700	35,000	
	一般財源	7,314	15,607	10,874

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国史跡二ツ森貝塚が世界文化遺産登録の構成資産となっていることから、青森県などと連携を図り登録を目指す。また登録に向けて町民の機運を高める事業を実施する。	<input type="checkbox"/> 内容	二ツ森貝塚のリーフレット、図録作成 二ツ森貝塚、ガイダンス施設への案内経路看板等の設置 二ツ森貝塚畜舎解体工事
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
見学者(推定)		約1,000人	約1,000人	約5,565人
プレハブ見学日誌記帳者数		645人	671人	—
二ツ森貝塚館入館者数		—	—	5,957人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	令和3年(2021年)7月に世界文化遺産登録となり、目的が達成された。登録の機運を高める事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・縮小という状況となったが、今後の各種講座については、社会教育事業としての開催、また、民間事業者等との連携も可能である。今後は、世界文化遺産の保護・活用としての取り組みが必要である。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	世界遺産登録が決定となり登録に向けた事業は完了となるが、引き続き県及び関係市町と連携し世界遺産の保護と活用の対応を行っていくこととなる。 二ツ森貝塚館については、適切な管理・運営を進めていく必要がある。 史跡来訪者の受け入れの要となるボランティアガイドの養成が遅れており、引き続き強化していかなければならない。 また、世界遺産登録後の講座等教育普及事業の在り方について検討する必要がある。
----------	--	---



# 事業評価シート

事業細目番号	3(2)③	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	史跡七戸城跡の保護・活用				

事業費	財源内訳	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		決算額(千円)	2,034	2,196	3,364
	国・県支出金				
	その他		287	163	
	町債				
	一般財源	2,034	1,909	3,201	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	史跡七戸城跡と史跡買上げ地の維持管理	<input type="checkbox"/> 内容	東門トイレの清掃等の業務委託。 史跡七戸城跡の維持管理(草刈、花菖蒲園)の業務委託。 ベンチ設置業務委託。 東門トイレの修繕。 御城印の販売。
------	-----------------------------	--------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	見学者(推定)			

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	昭和16年に国史跡指定された城跡で、一部公園となっているところは町民等の憩いの場にもなっていることから維持管理は必要である。 史跡買上げ地は、地元シルバー人材センターに維持管理業務委託し、都市公園として整備された柏葉公園の維持管理は、民間企業に指定管理(財政課契約)している。 施設設備の維持管理として、東門トイレの水道修繕やベンチの設置を行った。 御城印については、七戸町観光協会に販売委託を行い544枚を売上げ、城跡の維持管理費の財源に充てた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	花菖蒲園について、計画的な植替えと草取り等の維持管理ができるよう、委託事業者と協議をしながら適切な管理に努める。 史跡の維持管理等の委託業務の内容について、引き続き検討する必要がある。 町村合併後、史跡整備が中断しているが、今後は残りの史跡土地買上げの計画と併せて、史跡整備を進める必要がある。
----------	---	---



# 事業評価シート

事業細目番号	3(2)⑤	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	二ツ森貝塚館の運営				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)			—	—
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源				9,542

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	史跡二ツ森貝塚や縄文文化の魅力を伝えるガイド施設として、二ツ森貝塚の常設展示のほか、特別展示や体験活動などを行う。	<input type="checkbox"/> 内容	史跡二ツ森貝塚の資料の常設展示。 勾玉づくりやプランストラップ作りなどの体験教室の実施。 二ツ森貝塚館の維持管理。

事業効果	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			—	—
利用者数					

		評価項目	評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	史跡二ツ森貝塚のガイド施設として整備し、縄文遺跡群の世界遺産登録と相まって、多くの利用者を受け入れた。二ツ森貝塚の魅力を伝えることができたほか、勾玉づくりなどの体験活動を通して、縄文文化の魅力を伝えた。企画展示室では、世界遺産登録となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、パネル展示を行い世界遺産登録された資産の周知を行った。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	企画展示の開催や体験メニューの充実及び、堅穴住居や野焼き場など屋外での体験できる施設整備の充実を図る。 また、老朽化した旧小学校校舎であるため、耐用年数を見極めた施設の維持管理が必要である。
----------	---	--







# 事業評価シート

事業細目番号	4(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	小又 栞
事業名	七戸町ジュニアスキースクール				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		120	140
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	120	140	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スキーの基本練習を通し、技術の向上とスキーの楽しさを体感するとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的とする。また、参加者同士が行動をともにすることにより、望ましい人間関係を育む。	<input type="checkbox"/> 内容	対象 町内の小学生(1年～6年) 講師 七戸町スキークラブ員 回数 4回
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
参加者数(延べ人数)		304名	264名	中止

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
優先性が高い	低い		
評価の説明	アルペンスキーの講習会として町内の小学生を対象としており、雪国の冬期間のスポーツとして、また、他校の生徒との交流の場として、町民のニーズは高い。また、スキークラブと連携し、継続した参加に向けた取組として、講習内容など改善が図られている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	各小学校でもスキー教室は行っているが、その機会は少なく、町主催のスキー教室の継続は必要である。また、よりウィンタースポーツに慣れ親しんでもらうため実施してるスノーボード講習会について、継続して取り組めるよう関係団体と協議を行う。スキー教室の成果の場として開催する、スキー大会(町スキークラブ主催)への参加者増加に向けた検討を行う。
----------	--	---





# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	富浦 奨平
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	856	0	25	
	財源内訳	国・県支出金	60	0	22
		その他			
		町債			
一般財源		796	0	3	

事業概要	□ 目的	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。	□ 内容	県内全40市町村が参加し、青森市内の9区間を市の部・町の部・村の部でそれぞれ競う。令和3年度は開催中止。 選手 ・一般男子 6人(一般 6人) ・中学生男子 4人 ・女子 4人(一般 2人 高校生 1人 中学生 1人) ・小学生男子 2人 ・小学生女子 2人
------	------	--	------	--

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	成績	町の部 6位 総合 15位	開催中止	開催中止

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	町民が一体感を強めることができるスポーツイベントで、毎年入賞を目指し監督・コーチを中心に練習会や選考会等を開催し、選手の強化を図っており、県内トップクラスの選手も育成されている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	中学生以上女子区間・一般男子を走る選手の確保が課題であり、監督及びコーチと連携し選手の発掘を行う。 今後も毎戸配布をするなど、広報活動に積極的に取り組み、新戦力の発掘及び県民駅伝大会の更なる周知を図る。
----------	---	--

# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ協会補助事業				

事業費	財源内訳	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		決算額(千円)	1,771	1,879	2,210
	国・県支出金				
	その他	420	420	420	
	町債				
	一般財源	1,351	1,459	1,790	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	スポーツ協会及び加盟団体への活動支援	スポーツ協会及び加盟団体の活動(組織運営・事業等)に対する支援事業

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	体育協会加盟団体数	21団体	21団体	21団体
	体育協会加盟人数	610人	612人	818人

事業評価	評価項目			評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他			A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他			A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A	
評価の説明	スポーツを通じた町の活性化を図るためには、スポーツ協会の力が必要不可欠であり、組織運営上の支援としては最低限補助できている。			

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	競技人口が減少傾向にあるため、指導者の育成や幼少期からの育成等、スポーツ活動を推進する人材育成に向けた取組みを、各加盟団体と協議、検討を行っていく。 また、自主事業として、各種講習会等の開催を検討し、体育協会員の体力向上及び交流を図っていく。
--	--



# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		772	0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		772	0	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	体育協会及び加盟団体が町代表として地区大会並びに上位大会出場を支援し、競技力向上と指導者の資質向上を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	上北郡総合体育大会・北奥羽総合体育大会・青森県民体育大会への参加に伴う費用の一部を補助する。 選手強化のため施設使用料の一部を補助する。

事業効果	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)				
	上北郡総合体育大会参加者数		15競技183名出場(5競技優勝/総合第4位)	中止	中止
	北奥羽総合体育大会参加者数		4競技51名出場/総合第4位	中止	中止
	青森県民体育大会参加者数		11種目141名出場(2競技優勝/町の部第4位)	中止	中止
	全国東北大会出場数		2団体(ハンドボール、ゲートボール)		

事業評価	評価項目		評価
		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A	
評価の説明	令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種大会が中止となったが、今後、大会が開催されることになれば町代表として出場する大会への派遣費であり、選手強化に伴う成果及び競技人口の維持増加や生涯スポーツ活動の推進に必要な事業である。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	町代表として出場する大会への派遣費であり、優勝する競技があるなど選手強化につながっていることから今後も予算確保に努める。
----------	--	--



# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)⑥	担当課	生涯学習課	担当者	田嶋 友希
事業名	健康増進生涯スポーツ普及事業				

事業費	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	決算額(千円)	499	198	78	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
	一般財源	499	198	78	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	①町民の健康の維持増進・体力向上を目的に、子どもから高齢者まで参加しやすい軽スポーツの集いを実施し、地域スポーツ活動の普及・奨励を図る。 ②トップレベルの競技者の育成と指導者の確保を目的に、スポーツ指導者等講習会を実施し、競技者の競技力向上を図る。 ③総合型地域スポーツクラブ等の設立を目指し、スポーツ活動ができる環境づくりを支援し事業の充実を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町の生涯スポーツの普及を図るため、下記の事業を実施する。 ①軽スポーツの集い ②スポーツ指導者等講習会 ③スポーツクラブ育成支援
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
	軽スポーツ教室	109名参加	24名参加	34名参加
	スポーツ指導者等講習会	90名参加	38名参加	中止
	スポーツクラブ育成支援	—	—	—

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)      (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合)      (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A
評価の説明	①軽スポーツの集い:新型コロナウイルス感染症の影響下の中、前年と同じ回数実施することができた。町民の健康増進や体力向上のため継続して実施していきたい。 ②スポーツ指導者等講習会:新型コロナウイルス感染症の影響により、計画は立てていたが、中止という結果になった。 ③スポーツクラブ育成支援:七戸町スポーツ推進委員協議会の際に、総合型地域スポーツクラブについて進捗状況を説明し、意見交換することで、現状の把握、課題の確認をすることができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	町民に、スポーツができる環境を提供し、健康維持増進・体力向上を目的に継続する。 スポーツ推進委員を中心に、参加しやすい種目等を検討し、事業の展開を図る。 また、参加者を更に増加させるため、周知方法や開催日程等について検討する。
----------	--	---



# 事業評価シート

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	富浦 奨平
事業名	スポーツ顕賞表彰				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		209	74	98
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		209	74	98

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ活動において、顕著な成績を残した者、町民の健康福祉の増進に功労があった者又は広く町民の模範となるべき者を顕賞する。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ顕賞(①スポーツ功労賞 ②スポーツ賞 ③スポーツ優秀賞 ④生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。 各種団体、県内外の高校から推薦基準に基づき推薦を受け、七戸町スポーツ顕賞審議会で審議し、顕彰者を決定する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)				
	スポーツ功労賞受賞者数		個人1名	該当者なし	個人1名
	スポーツ賞受賞者数		個人1名	個人1名	個人1名
	スポーツ優秀賞受賞者数		個人5名・団体1(13名)	個人1名	個人6名
	生涯スポーツ奨励賞受賞者数		個人1名・団体1(9名)	該当者なし	該当者なし

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A	
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	各賞の種目及び大会種類による推薦基準の見直しを行ったことから、各種団体及び関係者等への周知を図り、候補者の推薦を円滑に行う。 また、必要に応じて推薦基準の見直しを行う。
----------	--	---



# 事業評価シート

事業細目番号	5(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	町屋 さおり
事業名	公民館運営審議員設置事業				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
		決算額(千円)		76	107
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		76	107	38

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	公民館が町民の意見を適切に反映し、民主的・効果的に運営されるために、運営審議委員の協力を得て公民館運営を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	公民館事業に関することや公民館の運営について、説明や意見の聴取等を行う会議を年2回開催するほか、年1回研修会に参加し、公民館運営の改善と地域に開かれた公民館づくりを推進した。

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
運営審議委員数		10人	10人	9人
会議		1回	2回	1回
研修会		1回	0回	0回

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い		低い
評価の説明	公民館運営審議会委員から意見や評価を得ることにより、地域に開かれた信頼される公民館づくりに貢献している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会(青森県公民館研究フォーラム)は中止となった。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	地域や公民館との関わりのある関係者の意見を広く求め、地域に開かれた公民館づくりを推進するために、継続が必要である。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	5(1)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	米内山 淳樹
事業名	中央公民館(施設)事業				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		31,230	32,447	32,544
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		31,230	32,447	32,544

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	生涯学習活動の拠点機能	<input type="checkbox"/> 内容	公民館施設の利用促進を図り、各種学習機会の増進、文化団体育成支援を行う。

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)	公民館利用者数(人)	14,809 人	6,142 人

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		B (イ)	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (ウ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A	
評価の説明	町が行うべき地域づくり支援にとって、公民館施設は地域活動の拠点であることから、多様化している町民のニーズに対して、本事業は優先性が極めて高い。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用制限等を行っているため利用者数は減少しているものの、本事業は安定しており定着していると評価する。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後は、住民ニーズと効果的な利用法・啓発方法を考慮し、利用率の向上に努めなければならない。 また、施設・設備について、定期的な保守点検を行い、利便性の高い施設・設備になるように努めなければならない。
----------	--	--



# 事業評価シート

事業細目番号	5(1)④	担当課	七戸中央公民館	担当者	米内山 淳樹
事業名	中央公民館講座開設事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		123	109
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	123	109	75

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民の生涯学習として、知識の向上と教養を高めることにより、心豊かな生活を送るための一助となることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	令和3年度の講座内容一覧 ①ヨガ教室 ②着付け体験教室 ③せっけん作り教室 ④そば打ち体験教室 ⑤スイーツ作り教室

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
講座数(講座)		7講座	7講座	5講座
講座申込者数(人)		122人	99人	53人
講座延べ実施数(人)		281人	160人	97人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (ア)、(エ)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
優先性が高い	低い		
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止ため、参加人数を制限する等規模を縮小しながら5講座を実施し、その中でも健康や料理に関する講座が人気があった。参加者も20代から80代と幅広く、参加者同士の交流を深めながら、サークルの立ち上げのきっかけの場となっている。今後は、サークルの立ち上げの支援をしていく。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	対象者、有効性、公平性等をより一層見極め、町民のニーズを考慮した講座を継続しなければならない。また、講座をきっかけとした自主運営団体を奨励し、助言・支援に努めていく。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑤	担当課	七戸中央公民館	担当者	檜山 るみ子
事業名	寿大学開設事業				

事業費	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)		60	42
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	60	42	65

事業概要	□ 目的	□ 内容
	高齢者が「技術・技芸」「スポーツ」「健康」「一般教養」の学習を図り、長年にわたって培った豊富な経験、知識、技術をさらに高め、健やかで生きがいのある人生を送り、社会活動に参加する学習機会を提供することを目的とする。	5月：開講式(青森県消費生活センター出前講座) 6月：健康教室(健康体操) 7月：町内施設研修(ニッ森貝塚館見学) 手工芸教室(マスクボックス作り) 10月：料理教室(お菓子作り) 健康教室(グラウンドゴルフ) 11月：芸能鑑賞教室(牛小屋音楽会) 12月：和太鼓教室・閉講式

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
開催数		10回	8回	8回
参加者数(人)		201人	121人	139人

事業評価	評価項目		評価
	①	必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②	妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③	有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④	公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤	効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (ア)、(エ)
	⑥	優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため日程の変更等があったが、心身ともに健康になれるよう全ての講座に積極的に参加していた。 町内施設研修で世界遺産登録となったニッ森貝塚館の見学では真剣に説明を受け学習するとともに、受講生同士の交流を深めていた。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	関係機関や関係課との連携を図り、学習内容をさらに充実させ、コスト削減に努める。 また、幅広い年代(60代～80代)の方が入学するので、アンケート調査を実施したり、町民の意見や要望を取り入れ、施設、設備環境に配慮し、学習機会を提供する必要がある。
----------	---	---























# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6 (2) ③	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)			92	87
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			92	87

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ②7ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ③学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ④県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園対象:家庭での読み聞かせ用絵本) ⑤読み聞かせボランティアの育成

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
おはなし会実績(回/人)		2回/40人	2回/31人	1回/15人
ブックスタート実績(人)		47人	73人	45人
学校配本実績(人/冊)		2,468人/5,724冊	896人/2,223冊	1,045人/2,942冊
図書セット巡回配本(ヶ所)		こども園・保育園 3ヶ所	こども園・保育園 3ヶ所	こども園・保育園 3ヶ所

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ④	担当課	中央図書館	担当者	上原子 洋子
事業名	生涯学習の推進・支援事業				

事業費	年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	決算額(千円)			0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			0	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民への学習機会の提供及び学習活動の支援を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	①図書館講座の開講 ②読書団体等への資料提供の支援や、イベントへの協力等 (“とっておきの話”懇話会)
------	-----------------------------	--------------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	項目(単位)			
実施回数(回)		①0回, ②2回	①0回, ②0回	①0回, ②0回
参加延べ人数(人)		①0人, ②64人	①0人, ②0人	①0人, ②0人
講座名		-	-	-
		“とっておきの話”懇話会 23・24	“とっておきの話”懇話会 23・24	-

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	図書館を利用して研究等を行っている町民が中心となり、町の人や歴史にまつわる逸話を発表する場として「“とっておきの話”懇話会」を開催しており、その運営等の協力・後援を行っている。 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止とした。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後も継続して取り組んでいく。
----------	--	-----------------